

函館国際水産・海洋都市
推進機構

一般財団法人

函館国際水産・海洋都市推進機構



Newsletter

第 32 号 2014 年 9 月 19 日

機構の活動

平成 26 年 08 月から
平成 26 年 09 月まで



海藻研究に係る意見交換会 開催

H26.08.05

函館市国際水産・海洋総合研究センター入居者のうち、特に海藻研究に関わりの深い企業、学術研究機関が集まり、研究センターを中核拠点とした海藻研究の方向性、協力体制などについてブレインストーミングを行いました。

海藻の培養技術と藻場形成について研究を行っている共和コンクリート(株)海藻技術研究所、磯焼け対策や核藻場造成研究を行っている(株)エコニクス、採石した石が含む成分が海藻の育成に与える影響を調査している(株)鉄山協和組、その他、北海道大学大学院水産科学研究院、北海道立総合研究機構函館水産試験場、また函館市企画部、農林水産部、当機構が参加し、漁業の現場で生じている問題点などを具体例としてテーマにあげ、その解決へ向けての協力体制などを模索しました。

今後も本会を定期的で開催し、海藻研究の拠点として世界へ向けて情報を発信するため、引き続き検討を重ねていく予定です。



マリンフェスタ 2014 開催

H26.08.24

函館市国際水産・海洋総合研究センターにて、函館市と当機構共催のマリンフェスタ 2014 を開催しました。

当機構では「函館国際水産・海洋都市構想」に基づき、学術研究機関を戦略的に集積し、産業・経済の活性化を図るとともに、観光と学術研究の融合や水産・海洋と市民生活の調和を図ることで、海を活かした新たな産業や文化の創出による 21 世紀の函館のまちづくりを目指しており、本年 6 月にオープンした函館市国際水産・海洋総合研究センターを中核拠点として、更なる構想の推進を行っているところです。



サメのおはなし



MARE(マーレ)プログラムの様子

構想の実現に向けては、産学官と市民の力を結集し、各施策を展開することとなりますが、市民一人ひとりが海を知り、海と親しみ、海と生活の関わりを考えることが、構想への関心を高め、構想の推進につながることから、当センターを利用した初めての市民参加型イベントとして開催し、約 2,800 名が来場しました。

大会議室にて開催した「サメのおはなし」では、北海道大学名誉教授 仲谷一宏 氏の講演の後、サメ

研究が趣味というタレント 林さやか 氏との対談を実施しました。サメの歯の標本やサメの皮製品の展示も行い、約120名の来場者は知っているようで知らないサメの世界の奥深さに触れることができました。

中会議室では、海を学ぶ体験型学習プログラム「MARE(マーレ)」を、午前と午後の2回実施しました。MAREの講師となる講習を修了した、函館在住の水産・海洋コーディネーター



試乗体験 ヨットにのろう！

である工藤世一 氏と塩見浩二 氏が講師となり、約40名の小学生に対してプログラムを実施しました。「魚！サカナ！さかな！」では、実際の魚を使用してその特徴を観察し、「赤い魚を探せ！」では、海を通して光について学びました。

またエントランスホールでは、センター入居機関の紹介や研究成果、海藻類に関するパネル展示の他、「表千家流学校茶道茶会」が行われ、約500名が来場しました。

屋外のイベントでは、晴天でほどよい風がある中、弁天岸壁から計3回の「試乗体験 ヨットにのろう！」を実施し、約90名がヨット試乗体験を楽しみました。「タッチプール」では、北海道大学水産学部の学生のサポートで、海の生き物に直接触れることができる浅いプールを解放し、子どもたちに大人気でした。

また「フィッシャーマンズワーフ hakodate」では、初公開の「いかみそ焼きそば」や、「ねばねば本舗」など道南の海産物及び加工品の販売で計10店舗が出店しました。

当日は晴天に恵まれて、多くの市民や観光客が来場し、大盛況に終わりました。

当機構では、市民生活との調和を重要施策のひとつとして、今後も広く市民が海に親しみ、海と生活の関わりへの関心を高めるイベントを企画・実施していきます。



タッチプール

オーシャンナイト（はこだて国際科学祭2014） 主催

H26.08.27

はこだて国際科学祭2014科学夜話イベントの一つ、「函館オーシャンナイト『噴火湾 寒流と暖流が出会う豊穡の海』」を、函館市国際水産・海洋総合研究センターエントランスホールにて開催しました。

ゲストに北海道立総合研究機構 水産研究本部 函館水産試験場 佐藤政俊 氏をお迎えし、当機構の産学官連携コーディネーターがファシリテーターとして、親潮水と津軽暖流水とが出会う特殊な環境の噴火湾について講演を行いました。

函館水産試験場は、全道にある7つの水産試験場の一つで、道南海域での調査・研究を幅広く担当しており、噴火湾の地形、生息する魚種・漁獲量等、また親潮水・津軽暖流水の流入や植物プランクトンの発生、水塊交換などの海洋環境について、調査・研究を行っています。

普段見ることのできない海水の動き、暖流と寒流の入れ替わり方を実験で再現するなど、大変興味深いお話を聞くことができました。

約40名の来場者があり、イベント終了後には、研究センター4階展望ロビーより、函館港を一望する夜景を堪能していただきました。



講演の様子

地域の活動

平成 26 年 08 月から
平成 26 年 09 月まで



北海道大学水産学部附属練習船おしよろ丸竣工披露式 北海道大学水産学部附属練習船おしよろ丸一般公開 実施

H26.08.01-02

北海道大学水産学部附属練習船おしよろ丸V世の竣工披露式が、函館市国際水産・海洋総合研究センターにおいて開催されました。北海道大学総長 山口佳三 氏の挨拶、来賓の文部科学省高等教育局審議官 佐野太 氏、北海道知事の代読で北海道渡島総合振興局長 宮内孝 氏が祝辞を述べ、来賓ほか関係者が船内を縦覧されました。

翌日は市民向けに「おしよろ丸V世」を一般公開、参加者は興味深げに船内を見学、説明パネルや船員の話の聞き、船内スタンプラリーに参加するなど楽しんで

でおりました。また、限定版おしよろ丸V世竣工記念パッケージのきのとや謹製クッキー「札幌農学校」などが販売され、完売するほど大好評でした。当初、一般公開は9時から12時までの予定でしたが、午後も市民が多数来場した為、急遽公開時間を15時まで延長し、最終的に1,400名強の参加となり大盛況でした。



テープカットの様子

北海道大学水産学部同窓会主催

水産・海洋研究に関する一般講演会「ダイオウイカ、奇跡の遭遇」開催

H26.08.02



講演の様子

水産・海洋研究に関する一般講演会が、函館市国際水産・海洋総合研究センターにおいて、開催されました。

国立科学博物館標本資料センターコレクションディレクター 窪寺恒己 氏が「ダイオウイカ、奇跡の遭遇」と題し、最新技術で迫る深海の世界について講演を行いました。

北大水産学部同窓生と一般の聴講者併せて約200名の参加者があり、話題のダイオウイカについての興味深いお話を聞くことができました。

平成26年度水産研究本部成果発表会 開催

H26.08.08

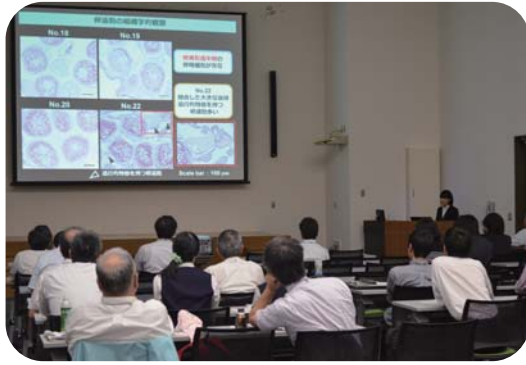
札幌市の第二水産ビル8階会議室にて、地方独立行政法人北海道立総合研究機構水産研究本部主催の平成26年度水産研究本部成果発表会が開催されました。

当日は道内各地から水産関係行政機関、水産関係団体及び試験研究機関の方々から274名が参加し、水産研究本部の研究成果の中から口頭・ポスターの各々で計14題が発表されました。

函館水産試験場からは、「マナマコ資源の維持・増大を目指して一奥尻町におけるマナマコ人口種苗放流追跡調査」（調査研究部 赤池章一 氏）と、「スケトウダラ資源を管理して漁獲量の安定化へ—道南太平洋スケトウダラ資源調査—」（同 武藤卓志 氏）の発表がありました。



講演の様子



学会風景

函館市国際水産・海洋総合研究センターにおいて、公益社団法人日本動物学会北海道支部 第59回大会が開催されました。

一般発表として、「ゼブラフィッシュにおけるデルマトポンチンの局在解析および機能解析」など北海道大学大学院水産科学研究院等の研究者が計14題を発表しました。

また、北海道内の高校生による特別発表（ポスターセッション）が行われ、函館からは、函館水産高校が「函館湾の魚類に関する研究」と題し、2009

年から函館湾にて様々な手法を用いて採集した魚類に関する研究結果について発表を行いました。

当日は、70名の参加があり、動物科学研究の発展と普及に繋がる学会となりました。

平成26年度「海のナビゲーター」「海のプロデューサー」
人材養成プログラム開講式 実施

H26.08.24

函館市国際水産・海洋総合研究センターにおいて、北海道大学大学院水産科学研究院が実施する平成26年度人材養成プログラム開講式が行われました。

本プログラムは、水産・海洋科学分野をはじめとする広い知識、経験を有する産学官連携活動を提言できる人材の養成を目指し、ワークショップや講演会等に参加して道南地域の課題解決にむけた提言や企画・運営を行います。

今年度は、「海のナビゲーター」9名、「海のプロデューサー」3名が受講し、プログラム修了後には、函館市国際水産・海洋総合研究センターを中心とした水産・海洋分野の各種事業やイベントにおいて更に活躍して頂く予定です。



開講式の様子

日本高専学会第20回年会講演会
次世代の高専を考える～100周年に向けて～ 開催

H26.08.30-31

函館市国際水産・総合研究センターにおいて、日本高専学会主催による「日本高専学会第20回年会講演会 次世代の高専を考える～100周年に向けて～」が開催されました。

本学会の1日目では、各会議室にて学生指導や教科研究などの部門に分かれ講演が行われた

ほか、午後からは一般講演として、20周年記念講演Ⅰ「クロマグロの完全養殖達成と産業化への現況」と題し、近畿大学水産研究所 所長 宮下盛 氏、同講演Ⅱ「函館高専新学科・センターの構想から実施まで」と題し、函館工業高等専門学校 校長 岩熊敏夫 氏が講演されました。

2日目にはポスターセッションやパネルディスカッション「高度化への方向性と課題」も実施され一般の来場者を含めて400名近くの参加者がありました。



講演会の様子

北海道大学が行っている「人口・活動・資源・環境 (Populations-Activities-Resources-Environments: PARE プログラム) の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム」が函館市国際水産・海洋総合研究センターにおいて開催されました。

センター見学その他、函館高専准教授 宮武誠 氏が、函館地域が取り組む海洋エネルギー利用・開発の検討に関する講演を、センター入居者である(株)エコニクス及び共和コンクリート(株)海藻技術研究所が、その取り組みについての発表を行い、その後参加留学生とのディスカッションなどを行いました。



発表の様子

◎ はこだてカルチャーナイト2014

日 時：平成26年10月3日(金) ★開館時間：17:30~20:30

場 所：函館市国際水産・海洋総合研究センター(函館市弁天町20番5号)

- ▶海藻おしば教室(実施:海藻おしばサークル)
対象:小学生以上 参加費:100円 17:30~順次(予約不要)
- ▶海藻万華鏡体験(実施:海藻おしばサークル)
対象:小学生以上 参加費:100円 17:30~順次(予約不要)
- ▶科学演劇(実施:函館工業高等専門学校演劇愛好会)
夢見るイルカ ①18:30~19:00 ②19:30~20:00
- ▶写真展 豊かな海の生きものたち
協力:北海道大学水産学部、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター日尻水産実験所
- ▶タッチプール
普段触れることのない海のいきものたちに触れて、海を身近に感じてみませんか。

◆お問い合わせ:(一財)函館国際水産・海洋都市推進機構 TEL:0138-21-4700 E-mail:office@marine-hakodate.jp

◎ 第10回バイオリギング研究会シンポジウム

「魚群を追う-From individuals to schools and populations-」

日 時：平成26年10月10日(金) 10:00~18:00(18:30~懇親会)
11日(土) 9:00~15:00

場 所：函館市国際水産・海洋総合研究センター・大会議室(函館市弁天町20番5号)

10月11日(土) 13:30~15:00 市民セミナー

「ペンギンとマグロとクジラの最新科学」 国立極地研究所 渡辺 佑基 氏

参加費
無料

お問い合わせ

日本バイオリギング研究会事務局

函館市弁天町20番5号 函館市国際水産・海洋総合研究センター内219号室気付

TEL:0138-85-6558 FAX:0138-85-6625

E-mail:biolog@bre.soc.i.kyoto-u.ac.jp

◎ 第13回北海道生物科学研究会シンポジウム

「函館の海から~水産・海洋生物研究の世界~」

日 時：平成26年10月31日(金) 13:00~

場 所：函館市国際水産・海洋総合研究センター・大会議室(函館市弁天町20番5号)

- 「幼体移植式藻場造成法(モアシス)の開発について」北山進一氏
(共和コンクリート工業(株)海藻技術研究所アルガテック kyowa)
- 「北海道周辺の海洋環境と漁場形成~事例紹介~」渡野邊雅道氏(道総研函館水産試験場)
- 「最近のバイオリギング研究~特に魚類への新たな試み~」宮下和士氏(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター)
- 「温暖化とマナモコの夏眠」五嶋聖治氏(北海道大学大学院水産科学研究院)

<シンポジウムに関するお問い合わせ>

シンポジウム世話役:北海道大学大学院水産科学研究院 栗原秀幸

TEL:0138-40-5561 E-mail:kuri@fish.hokudai.ac.jp

函館イカマイスター



第8回 (平成26年度)

養成講習会・認定試験

◆ 養成講習会

平成26年11月22日(土) 函館市国際水産・海洋総合研究センター

平成26年11月23日(日) 函館市国際水産・海洋総合研究センター

平成26年11月24日(月・祝) 函館短期大学付設調理製菓専門学校

◆ 認定試験

平成26年12月 7日(日) 函館市国際水産・海洋総合研究センター

(受験には養成講習会の一部受講が必須です)

定員
80名

但し、
定員に達し次第
締め切ります。

募集期間

平成26年

10月1日水から

10月31日金まで

受講・受験料 **5,000円**

[郵送での申込の場合 5,200円]

(養成講習会・認定試験・テキスト代)

本制度の認定者は(一社)大日本水産会からも認定されます。



函館イカマイスター認定制度

この制度は、函館の代表的な水産物であり、「市の魚」にも指定されているイカについて、その生産・流通・加工・販売・料理法等について熟知する「函館イカマイスター」を養成し認定することにより、食育における魚食を普及するとともに、地域ブランドの強化とPRに努め、生産・流通から消費まで正しいイカの実態と消費を促進し、函館の水産業、流通加工業、魚介類小売業および観光業の活性化と地域の振興に貢献しようというものです。

イカマイスターに認定されるためには養成講習会の受講と認定試験に合格する必要があります。また、本制度の認定者は同時に全国の水産関連業界の総合団体である(一社)大日本水産会からも認定されます。

申し込み・問い合わせ先

お申し込み詳細およびお問い合わせは下記までお願いします。
(祝日を除く、月～金曜の午前9時～午後5時まで受付可)
※募集要項及び申込書は下記事務局窓口、函館市施設等、もしくはホームページよりダウンロードして下さい。

主催：函館水産物マイスター養成協議会

函館水産連合協議会、函館商工会議所、函館市内漁業協同組合長連絡協議会、一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構

協力：函館市、一般社団法人大日本水産会

■ 養成講習会カリキュラム等

時間割 (会場)	平成26年11月22日 (函館市国際水産・海洋総合研究センター)	平成26年11月23日 (函館市国際水産・海洋総合研究センター)	平成26年11月24日 (函館短期大学付設調理製菓専門学校)
9:00～10:00	函館市の水産	イカの成分	9:00～10:30 (実習)イカの調理(A)
10:10～11:10	イカの種類	イカの鮮度保持と有効利用	11:00～12:30 (実習)イカの調理(B)
11:20～12:20	イカの生理と生態	イカの加工	
12:20～13:10	昼休み	昼休み	
13:10～14:10	イカ類の生態と資源変動	イカ釣り漁業の漁具・漁法	
14:20～15:20	水産食品衛生	14:20～16:20 (実習)イカの解剖	

(時間・科目等について変更される場合があります)

■ 認定試験の概要

出題数・試験時間等	択一式 100問以内・試験時間 90分
程度・内容	「イカ」に関する知識について、養成講習会テキスト掲載内容を中心に受験します。(テキストは受講・受験申し込み時に配付)試験は100点満点とし、70点以上で合格とします。
出題範囲	函館市の水産、イカの種類、イカの生理と生態、イカ類の生態と資源変動、イカ釣り漁業の漁具・漁法、イカの成分、イカの鮮度保持と有効利用、イカの加工、水産食品衛生、イカの解剖。(実技試験はありません)

発行：一般財団法人 函館国際水産・海洋都市推進機構

〒040-0051 北海道函館市弁天町20番5号

函館市国際水産・海洋総合研究センター内

TEL：0138-21-4700 FAX：0138-21-4601

URL: <http://www.marine-hakodate.jp/> E-mail: office@marine-hakodate.jp

